

1 学校教育目標

- 1 自ら学び目標をもって努力しよう
- 2 互いに尊重し助け合おう
- 3 困難に耐え心と体を鍛えよう

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力を身に付けさせる学校 ・心身ともに健やかな生徒を育てる学校 ・生徒、保護者、地域から信頼される学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・目標をもち、自ら進んで学習に取り組む生徒 ・礼儀や思いやりを大切にし、規律ある行動ができる生徒 ・心身ともに健康で、何事にも一生懸命に取り組む生徒
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善に向け、日々研究・実践に努める教師 ・生徒一人一人を理解し、生徒の健全育成に努める教師 ・教育公務員としての自覚と誇りをもって職務に励む教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

明るく素直な生徒が多く、落ち着いた環境で日々の学習や生活に励んでいる。運動会、文化祭などの学校行事や部活動にも一生懸命取り組み、立派な成果をおさめている。学校に対する保護者や地域の期待はとても高く、協力を惜しまない。更なる学力の向上や不登校生徒の解消が学校全体の主な課題である。

4 重点的な取組事項

番号	内容	実施期間				
		28	29	30	31	32
1	学力向上	○	○	○	○	○
2	関係小学校や家庭・地域との連携	○	○	○	○	○
3	生徒の健全育成	○	○	○	○	○

5 平成30年度の重点目標

重点的な取組事項－1	学力向上
A 今年度の成果目標	平成30年度区学力調査 目標通過率（学校平均）
基礎学力を身に付けさせ、目標値に達しない生徒を減少させる。	国語 75%、数学 60%、英語 50%
B 前年度の取組み内容	
項目	具体的な方策
落ち着いた学習環境	教室環境の整備、あいさつやチャイム着席など学習規律を徹底した。
放課後補充教室	数学、英語を中心に、週3回（各40分間）、学習支援ボランティアも活用し、全教員で指導にあたった。
長期休業中の学習教室と土曜学習講座	夏季休業中は各学年7日間（1年数学特訓を含む）、土曜学習講座は年間10回、個別指導をできるだけ取り入れて実施した。
家庭学習の充実	「自主学習ノート」や「家庭学習ガイドブック」の活用などを通して、家庭学習の習慣付けを支援した。

授業改善と若手教員の育成	校内研究授業の実施や他教員の授業参観などをもとに、教科指導専門員などの支援も得ながら、学校全体として授業力向上に取り組んだ。
--------------	--

C 前年度の成果と課題

- ・落ち着いた校内環境の中で、日々の学習に取り組ませることができた。
- ・毎日10分の朝学習、週3回の放課後補充学習(40分)を全校体制で実施した。
- ・全教員が協力して「家庭学習ガイドブック」を作成し全校生徒に配布した。今後さらに活用していく。
- ・区学力調査の結果、国語は通過率70.6%、数学50.6%、英語44.5%であった。3教科とも前年度よりも上昇したが、まだ下位層の生徒も多く、丁寧な支援が必要である。

D 今年度の目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策
別紙 「平成30年度 学力向上アクションプラン」参照		

重点的な取組事項－2 関係小学校や家庭・地域との連携

A 今年度の成果目標	達成基準
保護者・地域から信頼される学校づくり	学校評価アンケートにおける各項目の満足度を80%以上にする。

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策
小中連携	小学校との年間6回の合同研修会や新学習指導要領に関する研修会などを開催する。	生徒の学力向上、健全育成に役立つ内容とする。
家庭との連携	学校評価アンケート関連項目で肯定的評価80%以上を目指す。	月1回発行する学校だよりやホームページをとおして学校の情報を細かく発信し、保護者と教員の信頼関係を強固にする。
地域との連携・協力	地域行事に年1回以上参加する生徒、教員が6割以上をめざす。	六中マルシェ、地域運動会、荒川ウォーク、住区まつりへの参加を呼びかける。

重点的な取組事項－3 生徒の健全育成

A 今年度の成果目標	達成基準
全生徒が安心して生活し、自らの成長を実感できる学校にする。	思いやりの心をもって生活させることで、いじめ・不登校の防止に努め、全員が気持ちよく生活できる学校にする。また様々なことに挑戦させることで能力を伸ばさせる。

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策
基本的な生活習慣の徹底	登校時間、チャイム着席を守れる落ち着いた学校の実現を図る。	生活委員によるあいさつ運動やチャイム着席の点検をとおして時間を守った生活ができるようにする。
道徳教育の推進	教科化を見据え、各学年で検討した共通の指導計画での道徳授業を年2回実施する。	道徳教育推進教師を中心とした組織体制のもとに、各学年で指導案を検討し、「読む道徳」から、「考え、議論する道徳」を目指す。
いじめ、不登校への対策	年間30日以上長期欠席者数の昨年度比10%減といじめの根絶を目指す。	家庭はもちろん、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、教育相談センター等との連携を図る。いじめアンケートを毎月行い、生徒の心の声を丁寧にキャッチする。